日本語のタイトル

正会員　○藤田慎之輔 *1
同　北九太郎 *2
同　北九次郎 *3

キーワード 1　キーワード 2　キーワード 3
キーワード 4　キーワード 5　キーワード 6

1. はじめに

これは，2018 年現在における「日本建築学会大会学術講演梗概集」の執筆要領に合わせて藤田が作成した LaTeX テンプレートです．学内学外問わず自由にご使用いただいて構いませんが，スタイルファイルにはダウンロードパスワードを設けていますので，必要な方は藤田まで直接メールでご連絡ください．パスワードを返信いたします．

Title in English

FUJITA Shinnosuke, KITAKYU Taro and KITAKYU Jiro

2. ファイルの概要

メインファイル，スタイルファイル TAIKAI.sty と，参考文献ファイル myrefs.bib の 3 つで構成されています．TAIKAI.sty は特に編集の必要はありません．myrefs.bib は，引用する参考文献を適宜編集・追加します．

3. メインファイルの設定

メインファイルからプリアンプルで TAIKAI.sty を呼び出して使用します．共著者の数に応じて，本ファイルの\numofauthors の数値を設定します．

2 ページ目のフッターの高さは，affiliation の行数に合わせて自動でコントロールされます．

\setlength{\affmargin}{〇〇 truemm}の部分では，2 ページ目のフッターに表示される所属・肩書の日本語と英語の間のクリアランスの調整ができます．デフォルトでは 12mm となっています．

\authorA{〇〇}〜\authorE{〇〇}の部分に著者名を記入します．著者の数は，\numofauthors の数と一致させておく必要があります．例えば，\authorA〜\authorE までの 5 人の著者を記入していても，\numofauthors の数が 2 であれば，\authorB までしか出力されません．6 人以上の共著者がいる場合には，TAIKAI.sty の修正が必要です．

\authorAe{〇〇}〜\authorEe{〇〇}の部分には著者名の英語表記を記入します．こちらも，著者の数は，\numofauthors の数と一致させておく必要があります．例えば，\authorAe〜\authorEe までの 5 人の著者を記入していても，\numofauthors の数が 2 であれば，\authorBe までしか出力されません．6 人以上の共著者がいる場合には，TAIKAI.sty の修正が必要です．

\affiliationA{〇　〇}〜\affiliationE{〇　〇}の部分には所属肩書を記入します．所属肩書の数は，\numofaffs の数と一致させておく必要があります．例えば，\affiliationA〜\affiliationE までの 5 人の所属肩書を記入していても，\numofaffs の数が 2 であれば，\affiliationB までしか出力されません．6 種類以上の所属肩書がある場合には，TAIKAI.sty の修正が必要です．

\affiliationAe{〇〇}〜\affiliationEe{〇〇}の部分には著者の所属・肩書を英語表記を記入します．こちらも，所属肩書の数は，\numofafffs の数と一致させておく必要があります．例えば，\affiliationAe〜\affiliationEe までの 5 人の所属肩書を記入していても，\numofaffs の数が 2 であれば，\affiliationBe までしか出力されません．6 種類以上の所属肩書がある場合には，TAIKAI.sty の修正が必要です．

\keywordA{〇〇}〜\keywordE{〇〇}の部分にはキーワードを記入します．キーワードが 6 個に満たない場合には，残りのキーワードは空白にしておけばよいです．

4. 図の引用

通常通り，figure 環境で引用すればよいです．

5. 参考文献の引用

参考文献の引用には，参考文献ファイル myrefs.bib を使用しています．myrefs.bib にたくさんの文献データを登録していても，実際に参考文献として出力されるのは，\cite{}によって実際に引用した文献のみであるので，自分が良く引用する論文は逐次参考文献ファイルに蓄積しておくと，いろんな場面で使用できて便利です．参考文献は，引用された順に出力されます．

参考文献ファイルの書き方について知識がない人は，例えば
http://akita-nct.jp/yamamoto/comp/latex/bibtex/bibtex.html
ftp://blackknight.ics.nara-wu.ac.jp/pub/doc/bibtex.pdf
などのウェブサイトが参考になります．

例えば，myrefs.bib に

```
@article{fujita_aij_2009,
author={藤田　慎之輔，大崎　純},
title={ひずみエネルギーとパラメトリック曲面の代数不変量を考慮したシェルの形状最適化},
journal={日本建築学会構造系論文集},
year={2009},
volume={74},
number={639},
pages={857--863}
}
```

のように記載されいる場合には，文献を引用したい文章の途中で\cite{fujita_aij_2009}を挿入することで文献[1]が引用されます．一度引用した文献は，末尾の section に生成される**参考文献**の欄に引用順に随時出力されます．

参考文献

1) 藤田慎之輔, 大崎純. ひずみエネルギーとパラメトリック曲面の代数不変量を考慮したシェルの形状最適化. 日本建築学会構造系論文集, Vol. 74, No. 639, pp. 857–863, 2009.

∗1 北九州市立大学国際環境工学部　講師・工博
∗2 所属・肩書 2
∗3 所属・肩書 3

∗1 Lecturer, The University of Kitakyushu, Dr. Eng.
∗2 affiliation2
∗3 affiliation3